

児童が描く諏訪の未来

ゆめプロ 市長と教育長へ提言

諏訪市内の小中学生が学校や学年を超えて学び合う「すわ未来創造『子どもゆめプロジェクト』(通称・ゆめプロ)」は23日、市長と教育長への提言を同市駅前交流テラスすわつチャオで行った。「私たちがつくる諏訪の未来」をテーマに5月から学びを深めてきた小学5、6年生の6人が、自分たちで考えたごみの削減やリサイクルなどの取り組みを提案した。

ゆめプロは市教育委員会の事業で、今年度で2年目。今年度は全13回開き、児童らは、地域の大人や高校生・大学生のサポーターの手助けも受けながら、座学や霧ヶ峰の散策、諏訪湖のヒシ取り、企

業訪問などに取り組んだ。発表は児童が4組に分かれ

「生ごみの削減」たばこのポイ捨てをなくす「校庭の芝生化」ペットボトルキャップのリサイクルをテーマにそれぞれ行った。保護者、教職員、お世話になった講師やサポーターも見守



↑ 深めてきた探究の学びを生かして諏訪の未来のための取り組みを提案する児童ら

る中、提言テーマとした理由や現状の課題、期待できる効果などをパワーポイントを使い説明。会場からの質問にも答えた。

このうち、城南小学校5年の鈴木結心さんと湖南小学校5年の濱奈史さんは、諏訪湖のごみを集めた際、たばこの吸い殻が一番多かったことから、たばこのポイ捨てを提言テーマにした。

吸い殻が捨てられることによる環境や生態系に及ぼす悪影響を説明。自分たちで調べた国内外の先行事例を紹介しながら、環境への悪影響を伝える啓発教育の強化と、AI監視システム付きの満杯前に清掃員に通知する「スマートごみ箱」の導入を提案した。

金子ゆかり市長は講評で「皆さんが自分で気が付いたことを粘り強く、いろんな側面から調べてくれたことが素晴らしいし、うれしい」と児童らをたたえた。(山本雄太)